

第二十五軍司令部略歴

- 一 編成地 広東ノ二十三軍司令部
- 二 編成完結日時 昭和十六年七月
- 三 行動の概略

年月日	概略
自昭 十六 九	広東に在りて南部仏領印度支那に對する進行作戰の準備及び更進
昭 十六 九	南部仏領印度支那西夏に前進
自昭 十六 九	西夏に在りて再未半島に對する作戰準備
自昭 十七 二	再未半島南部に對する上陸作戰並に再未半島南下作戰
昭 十七 二	新嘉坡攻略作戰実施 軍司令部新嘉坡に前進
自昭 十七 二	新嘉坡に在りて北部「スマトラ」攻略 作戰次いで中部「スマトラ」
昭 十七 二	激進作戰の指導
自昭 十六 五	中「スマトラ」ノスキチンヤレに前進 「スマトラ」防衛作戰の準備 中終戦に至り終戦処理

0023

年月日	事由
昭 和 九 一	タイピン出航
三	昭南島到着
七 三	軍令陸甲六六一号に依りた 電信オ一連隊編制下令
九 九	編成完結
一 三	昭南島出航
二 四	スマトラパレンバン港上陸
八 四	巡、スマトラ島の警備通信に従事
至 自 九 五 一 五	スマトラ島の防犯通信に従事 軍令陸甲六七号に依り電信オ一連隊編成下令 編制完結

昭	至自	至自	至自	至自	昭	年 月 日
二 三 三	一 一 二	一 一 二	一 一 二	一 一 二	二 三 三	
二 八 四	二 一 三	一 一 二	一 一 二	一 一 二	二 三 三	日
<p>標</p> <p>オ九飛行師団長</p> <p>パレンバン防衛司令官</p> <p>北部馬來攻略作戦</p> <p>中部馬來攻略作戦</p> <p>南部馬來攻略作戦</p> <p>新嘉坡攻略作戦</p> <p>終戦</p> <p>オ二十五軍司令官の隷属指揮下よりオ九飛行師団長の指揮下に入り パレンバン市より「ラハト」附近に転進を命ぜりふと共に終戦後の沿 安警備措置実施を命ぜりふ</p> <p>略</p>						

- 一、軍令陸甲オ七号に拠る常設被備
- 二、オ二十五軍司令官の指揮隷属
- 三、及遷概略

0026

年月日	概	要
昭和十一年	<p>「タンジヨシカラシ」の「アラモリ」の「ラハト」の「ルガクリン」が、通信幹線の保管を兼任しつゝ治安整備に任じありた事も本年三月に「スマトラ」に駐屯したの業務と日本軍の商船準備の再「パレンバン」に移駐せり。爾後「パレンバン」を中心とする軍通信網の確保と治安維持の専念、</p> <p>状況の変化に伴ひ「パレンバン」に集結</p> <p>先遣隊（坂谷中尉以下一五九名）を編成せられ内地出航の爲「パレンバン」に於て乗船す。</p>	
大 南		
七 四		
七 三		

第十五野戦輸送司令部部隊略歴

第十五野戦輸送司令部

陸軍大佐 折田 義一

年月日	概略
昭和二十一年八月五日	<p>軍令陸甲オ一五五号に依り編成下令 1 スマトラ 島東海岸州 1 ペマタンシマンタルに於て編成完結 1 ペマタンシマンタルに在りてトバ湖に周辺地区の輸送及警備</p> <p>歴代部隊長名 陸軍大佐 折田 義一</p>

年 月 日	至 自 三 五 九 三 二
概 要	次二十五軍司令官直轄となり各種輸送及軍内荷撤退輸送に従事レオニ 十五軍司令官より賞詞授與

0030

特設自動車第十五大隊略歴

特設自動車十六中隊長 宮沢鐵雄

年月日	概	要
昭和六年十月八日		「マムトラ」島「メダ」に於て編成完了。「通」部隊戦闘序列に編入
自 至 昭和六年十月八日		「スマトラ」島北都地区に於て各種輸送業務並に防犯に従事
自 至 昭和六年十月八日		間、於て先が「十五軍」戦闘序列に編入後、後が「十五軍」戦闘序列に編入
自 至 昭和六年十月八日		森「一五八」三部隊（ビルマ）に派遣中の兵三名同部隊に転属す
自 至 昭和六年十月八日		連合軍の命に依り北都「スマトラ」島に於て各種の輸送業務並に整備に従事す
昭和六年十月三十一日		南方が十陸軍病院に入院中の兵三名及逃亡者下士官一、兵一、計二名を共催残置し「スマトラ」島「バタワン」港に脱出
昭和六年十月三十一日		馬木半島「バタバハ」に上陸

0031

年月日		概 要
昭 二 一 四 一 三	三 四 一 七	下士官三名、兵大名、計九名を病弱者として「バトバハ」に残置し同 地出發
自 三 一 四 一 七	三 一 四 一 七	再東中島「ガルアン」に到着横河を終了同日同地を出發「シンカボ ル」に到着作業隊に編入せり
三 三 九 三 九	三 三 九 三 九	向「シンカボール」に在り作業隊として各種の連合軍作業に従事 朝嶺丸にて「シンカボール」を出發
三 三 十 三 三	三 三 十 三 三	佐世保港に上陸 役員完結
歴代部隊長名	陸軍大尉	宮澤 鉄 雄

0032

独立自動車第五十七大隊部隊略歴

歴代部隊長 陸軍少佐 駒木 素太郎
 中佐 山下 崋

年月日	概要
昭和 一 九 二 六	勸奨下令 久留米西即ち五十四部隊に於て編成、本部材料廠を一中隊 の二中隊、を三中隊、を四中隊、自動車二百車輛 初任大隊長 陸軍少佐 駒木素太郎 外征の爲 門司港出航 中華民國広東省黄埔港上陸し広東市小梅村に駐屯自動車整備操縦教 育機関訓練に従事す シンガポール攻略戦参加の爲 本即ち一中隊、を二中隊 材料廠（を 三中隊、を四中隊）中華民國広東省虎門司港出航 泰國マシンドラレ敵前上陸直に戦闘参加 泰國英領馬來國境通過 シンガポール完全攻略（戦死四）爾後庇能島に駐屯 輸送整備に従事
一 九 二 七	
一 九 二 八	
三 一 五	

0033

年月日	概	要
一七 四 三	シムカポール主力追及の事 暹南上陸	オ三中隊 オ四中隊 虎内老出發
一七 五 九	補独立自動車オ五十七大隊長陸軍少佐山下海同号八月十二日着任 スマトラ島進駐の事 暹南老出發	
一七 七 四	スマトラ島パレンバン上陸 爾後中隊「バヤクンガレ」に進駐 警備宜敷 轉送業務に從事す 將に派行場「ニケ」所新設 ジヤンガル内自動車路 七十キロ新設す 其の功に依りオ二十五軍司令官田辺益哉中将より 賞詞を受く 尙、終戦後輸送業務に車輛の整備 部隊団結 車規厳正に基き	
一六	オ二十五軍司令官田辺益哉中将より賞詞を受く 内地復員帰還の事「スマトラ島」「パカンバル」港出發	
三	シムカポール「ゲツ」や老内地向出航 名古屋老上陸	
六 一	部隊主力召集解除	
三		

0034

独立自動車力二百五中队部隊略歴

年月日	概要
昭 一 天 九 二 九	<p>近江捜索連隊補充隊に於て編成を完了</p>
二 一 五	<p>オ十六軍の隷下に入り</p>
三 一 五	<p>オ十六師団の指揮下に入り 大阪港を出發す</p>
三 一 五	<p>「ブイリッピン」に「ルソン」島「アチモナン」に上陸し「マニラ」作戦の輸送業務に従事す</p>
一 七 二 八	<p>オ十四軍の隷下を脱し、オ十六軍の隷下に入り、同日オ四十八師団の指揮下に入り「ルソン」島「リンガエン」灣出發</p>
三 一	<p>「ジマワ」島東北岸「クラカン」に上陸「ジマワ」作戦の輸送業務に従事す</p>
六 八	<p>オ四十八師団の指揮下を脱し南方燃料廠「ジマワ」支廠の指揮下に入りて油田復旧開発の爲「スラバヤ」並に「チエルト」に位置し、諸材料の輸送業務に従事す</p>
一 八 八 二	<p>「ジマカルタ」港出發と同時に南方燃料廠「ジマワ」支廠の指揮下を</p>

年月日	概 要
昭一八八二四	<p>脱し、南スマトラ燃料工廠の指揮下に入り、同「スマトラ」捕「パレンバン」上陸、製油施設の防衛工事の諸資材輸送に従事す</p>
二一七	<p>オ十六軍の隷下を脱しオ二十五軍の隷下に入る 攻撃の緊迫に依り、一ヶ小隊を「ジマンビル」(パレンバン北方約四百里)の地奥に分遣せり</p>
三	<p>終戦後、工廠の現地自衛態勢確立の爲、主カ中約半数は「ランポン」州に移駐 情勢の急変に依り「パレンバン」に集結し以て、製油施設引継の爲、諸廠の輸送を担当し、未だり内地帰還決定せり、や「ジマンビル」分遣隊は「パレンバン」に集結せしめり此</p>
三七三	<p>内地帰還の爲、同世を出發</p>
八五	<p>大竹巷に上陸</p>
八六	<p>復員を完結す</p>

独立自動車才二三五中队即队略歴

歴代即隊長名 大尉 小澤 真澄

大尉 内田 寅夫

年月日	概	要
昭一 大九 一七	野島重純大才十八連隊補充隊に於て編成完結	
十 四	芝罘港出帆	
十 二	台湾高雄港上陸待機	
十 三	高雄港出帆	
一 七 一 九	泰国「シンゴラ」に上陸、爾後軍需品の後方輸送に従事	
八 四 二 十	「スマトラ」島「パレンバン」に上陸、爾後南即「スマトラ」警備並防	
三 七 三	任に伴う輸送業務に従事す 「パレンバン」出帆（五八号）	
八 五	大竹港上陸	
八 六	復員完結	

特設木上勲務オ二十五中队

留オ一〇三九七部隊略歴

年月日	概略
昭和十八年四月二十九日	編成完結(「スマトラ」島「パレンバン」……縮成地) 「パレンバン」防犯各部隊の陣地構築資材燃料糧秣等の木上勲送任 す。(縮成より終戦迄の経過)
昭和十七年七月九日	「スマトラ」島の防犯……(参加せる主要作戦) 陸軍伍長石原文夫、南方オ九陸軍病院に於て「アムール」性末痢にて 戦病死
昭和十七年三月一日	陸軍兵長長瀬 武、戦傷南方オ九陸軍病院に入院(後送) 役員関係事項
昭和十七年三月四日	「スマトラ」島「パレンバン」出発
昭和十七年三月五日	佐世保上陸
昭和十七年三月六日	復員完結
	歴代部隊長 陸軍大尉

特設陸上勤務ヲ十四中隊部隊略歴

年月日	概
昭和八年四月五日	昭和一八軍令陸甲一大屯に依り「スマトラ」島「メタン」市に於て編成完結
〃 〃 〃 〃	南方軍總司令部直轄
〃 〃 〃 〃	中隊ハ一小队欠レハオニ十五軍野戦自動車廠に配属
〃 〃 〃 〃	一小隊・オニ十五軍野戦兵器廠に配属
〃 〃 〃 〃	オニ十五軍司令部直轄
〃 〃 〃 〃	スマトラ島整備
〃 〃 〃 〃	スマトラ島防犯
〃 〃 〃 〃	終戦
〃 〃 〃 〃	「スマトラ」島東海岸州「テイジユワン」に移駐
〃 〃 〃 〃	オニ十五軍野戦兵器廠に配属の一小隊中隊復版
〃 〃 〃 〃	「スマトラ」島東海岸州「カムンバユ」に移駐
〃 〃 〃 〃	「スマトラ」島「ブラワン」移駐

年月日	概	要
昭 三 四 一	南馬末「バトパハレ」上陸同地に駐留	
〃 四 六	柳澤中尉以下四六名南馬軍司令部補給部長の指揮下に入る	
〃 五 七	中隊長以下一三名内地飯還のため新嘉坡東船	
〃 五 八	名古屋港上陸	
〃 五 五	復員完結	

南方才十七陸軍病院部隊略歴

調製官 南方才十七陸軍病院長

陸軍少佐 尾坂政男

年月日	概	要
昭和 八十 五	<p>南方才八陸軍病院「パキチンヤ」分院を引継ぎ同日締成完結 終戦時に於ける締成表附オ一の如し (部隊締成概要)</p> <p>「スマトラ」島「パキチンヤ」市に於て、締成完結、同地に陸軍病院 を開設、中部スマトラ地区の患者を収養及診療指導任生試験防疫、任 生材料供給を行うと共に島内防衛任す</p> <p>開設当初患者収容力は一五〇名なりも漸次拡張し、終戦前収容能力 六〇〇名に達す (行動及任務概要)</p> <p>「パカンバル」 「サワレント」 「バタン」 「サワレント」</p>	<p>各分院開設 分院閉鎖</p>
昭和 二十 六		
昭和 二十 三		

年月日	概
概	要
三〇三	「パカン」分隊閉鎖
九五	「パリアマン」コ「アイルモレ」コ「ムアロ」コ「ルブアンパンジャン」コ 各分隊を閉鎖す
二〇	本院は「パヤリン」コに移駐す
四一	本院は「パカンバル」コに移駐す
五元	部隊主力は内地帰還の自動的を以て「パカンバル」コ出発 再乗「バトバハ」コ上陸「クルアン」コ經由
六二	「シン」コが「ホル」コ出発
三	名百屋巻上陸復員完了
元四	主たる人員の異動
三八五	補充交代要員として荷州部隊より得枝以下 名到着す 転入者左の如し 陸軍准尉 西内正一以下一〇三名、オ四七兵站警備隊より 「」軍医大尉 田中権以下三名 此等ヲニ師団歩兵オ五連隊在生中 隊より

0045

年月日	概
照	<p>陸軍医大尉 黒田金夫以下二名 丘征才二部團才一野戦病院より 有藤俊以下一五三名 才二十五軍軍政監部其の他より (衛助看護婦)</p> <p>陸軍員 此下ひる子以下一三名 才二十五旅團司令部より勤務 才一次老墮隊として荒井大尉以下八四名 才パカンバルレ出発 衛助看護婦 竹村昌枝以下一〇三名 (終戦后雇傷者) 解備 重症患者一七〇名 同護送員三八名 才パカンバルレ出発 軽症患者二五〇名 同護送者二四名 才パカンバルレ出発 収容患者の状況 一三三名 一六二五名 五〇〇名 自昭和二十一年一月一日 至 二十一年五月二十九日 病院長の異動</p>
三	
二〇	
元	
四	
四	
四	
二	
一〇	

南方オ十陸軍病院部隊略歴

年月日	概要
昭和十七年五月十五日	軍令陸甲中五十四号に依りオ六十八兵站病院復員下令 オ十陸軍病院臨時編成下令
五月十五日	南方オ十陸軍病院編成完結（在昭南島）
五月十一日	スマトラ島直駐昭南島に存りて待機
五月十一日	昭南島出帆
五月十一日	スマトラ島ベラワン港上陸
五月十一日	メカンレに於て病院開設、同日コニタラギャレに分院開設
五月十二日	コシボルがレ分院及びコアラヌギレ高尿酸養所を開設す
五月十一日	コタルトンレに分院を開設す
五月十一日	本院コペマタンシヤンタルレに移駐しメカンレ分院を開設す
五月十二日	オ一次高尿酸養所人員一三名ベラワン港出帆
五月十三日	コタンジョンモラワレ分院棟を開設す
五月十四日	オ二次高尿酸養所人員九一名ベラワン港出帆
五月十四日	本院コタンジョンモラワレに移駐す

近征才二師團司令節略歴

年月日	概	要
昭和 一五 六 三	軍令陸甲カ一〇号に拠り近征師團臨時動員並に編成改正下令	
〃 〃 〃 七	近征師團動員完結	
〃 〃 〃 七	屯営出発東京港出帆	
〃 〃 〃 七	中支漢口上陸	
〃 〃 〃 七	中支漢口出帆	
〃 〃 〃 七	近征師團長南支龍門港到着の時を以て最の外征中の近征混成旅團を其の 隷下に入らしめり	
〃 〃 〃 七	南支欽阜上陸	
〃 〃 〃 七	広西省南寧到着	
〃 〃 〃 七	近征師團軍令陸甲カ一〇号に拠り編成完結	
〃 〃 〃 七	近征師團編成に伴ひ近征才一旅團司令節及近征歩兵才二連隊を師團 長の隷下と脱し近征才一旅團司令官の隷下に入らしむ	
〃 〃 〃 七	南寧周辺の警備に任ず	

年月日	概	要
至自 昭和五 九 九 五	北都印道駐作戦参加 欽寧撤退作戦の爲、南寧出発 欽寧出帆 南支中山県唐家上陸同日石岐市着	
至自 五 二 九 三 三	欽寧撤退作戦参加 軍令陸甲ヲ五七号、丘征師團編制改正並クオ七六次復員下令 丘征師團軍令陸甲オ一〇号に拠テ編成完結 丘征師團編成に伴ヒ丘征師一旅團司令即及丘征歩兵二連隊を師團長 の隷下を罷シ丘征派遺軍司令官の隷下に入ケレシム	
至自 五 九 七 三 〇	南寧周辺の警備に任ず	
至自 五 九 七 三 〇	北都印道駐作戦参加	
至自 五 二 六 三 〇	欽寧撤退作戦の爲、南寧出発 欽寧出帆 南支中山県唐家上陸同日石岐市着	

年月日	概
至自 昭一五 二九 三〇	飲舞撤退参加 軍令陸甲才五七号 丘征師團編制改正並に才七六次復員下令
〃 〃 〃 三 〃 〃 〃 四	丘征騎兵第一連隊復員の爲 中山泉唐家出帆 師團長の隸下を脱す
〃 〃 〃 〃	丘征騎兵連隊復員の爲 中山泉唐家出帆 師團長の隸下を脱す
〃 〃 〃 〃	丘征捜索連隊編成完結
〃 〃 〃 〃	丘征師團編制改正並に復員完結
〃 〃 〃 〃	丘征歩兵才五連隊兩支 中山泉唐家上陸師團長の隸下に入る
〃 〃 〃 〃	中山附近の警備に任ず
〃 〃 〃 〃	雷州半島遮断作戦参加
〃 〃 〃 〃	山尾附近遮断作戦参加
〃 〃 〃 〃	東江作戦参加
〃 〃 〃 〃	丘征師團長 飯田祥次郎中将才二十五軍司令官に親補せらる
〃 〃 〃 〃	仏印派遣軍司令官 西村政務中将 丘征師團長に親補せらる

年月日	概	要
昭和 三 三 八	「スマトラ」島南鄙より北上せる沖三十八師団との連絡なき	
昭和 三 三 六	近江師団司令部「メカン」に帰還 「コタチヤキ」附近蘭軍降伏	
昭和 三 三 五	「スマトラ」島作戦参加 近江師団長 西村琢麿中将参謀大本所に転補 陸軍事務局長 武藤章 中将近江師団長に新補せらる	
昭和 三 三 四	「スマトラ」島警備に任ず 軍令陸甲カ四〇号に換り近江カ二師団と改称	
昭和 三 三 三	近江カ二師団長 武藤中将カ十四方面軍参謀長に補せられ、カ一五軍 参謀長 久野村代中将近江カ二師団長に親補せらる	
昭和 三 三 二	終戦の大詔発表せられ血涙を看みんが干すを収む 停戦條約締結大東亞戦争終了	
昭和 三 三 一	「スマトラ」島の作戦防犯に任ず	
昭和 三 三 〇	「スマトラ」島東海岸州に部隊を集結、終戦業務を処理す	

0055

近衛歩兵才三連隊部隊略歴

年月日	概	要
昭一五 六 三	動員下令 動員完結	
〃 〃 〃	支那派遣のため芝罘出發（中支揚子に於て休戦準備）	
〃 〃 〃	広東省救虫山上陸爾後従軍	
〃 〃 〃	爾支に在りて轉地勤務に從事	
自一五 六 〇	南支及仏印に在りて事變地勤務に從事	
自一五 七 〇	仏印泰國境通過 爾後泰馬來に在りて從事	
自一五 七 五	「スマトラ」島上陸爾後同地に在りて從事	
自一五 八 〇	馬來及「スマトラ」島に在りて警備並防役に從事す	
自一五 八 五	「スマトラ」島に在りて防犯に從事す	
自一五 九 〇	内地帰還のため「スマトラ」島「ベラワン」港出發	

0057

ア
キ
ス
マ
ト
ウ

	年 月 日
	概 要

昭
三
二
二
四
六
六
解
散
復
員
完
結
浦
賀
港
上
陸

0058

近衛歩兵才五連隊部隊略歴

近衛才五師団
 近衛歩兵才五連隊長
 陸軍少将 澤村 駿 甫

年月日	概
昭和五年三月四日	東京都麻布区新龍土町東部才八師団に於て編成完結 東京老出帆
昭和五年三月一日	南支那広東省中山県唐家上陸
昭和五年三月二日	雷洲方面遮断作戦に参加（才二大隊隊）
昭和五年三月三日	弘尾附近遮断作戦に参加（才二大隊基幹）
昭和五年三月四日	余孽謀指揮の支那軍と数度に亘る 戦斗 戦死傷 二十数名
昭和五年三月五日	東江附近の作戦に参加

至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	至	自	年月日	概	要
天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	七一 二三	南支那及東省中山県附近警備（除作戦期間）	
一	二	三	三	二	八	八	七	八	七	七	五	八七 二三	南支那印進駐作戦に参加	
三	三	五	九	五	三	六	五	五	五	五	三	八七 二三	中山県農家出帆	
													印西黄港上陸	
													印金田着	
													南支那印西貢附近の警備	
													泰國進入作戦に参加	
													印泰國境通過	
													避谷者	
													馬末攻略作戦に参加	
													北支那馬末攻略作戦に参加	
													南支那馬末攻略作戦に参加	

年月日	要	概
至自 天 二 三	新嘉坡攻略作戦に参加 右戦斗に於て陣死四六八名 戦傷二八三名	
至自 三 三 三	「スマトラ」島作戦に参加 スル「ラハハル」上陸	
至自 三 三 三	馬來「ジョホール」洲警備	
至自 三 三 三	馬來半島警備	
至自 三 三 三	「ジャワ」 「マラン」 附近警備	
至自 三 三 三	南初馬來防犯に従事	
至自 三 三 三	「スマトラ」島警備並に防犯に従事	
至自 三 三 三	終戦 北部「スマトラ」 「デレンチンヤ」に突カ装束	
至自 三 三 三	オ一次帰還者 一ニ一五名 「ベラワン」港出帆	
至自 三 三 三	「現在「マライ」 「シンガポール」地区に上陸せしめられ 所務に服しあり	

年月日	概	要
昭二五三	オニ次帰還者 一〇〇名	「ベラワン」港出帆
シ七〇	オエ次帰還者 一七六名	同 右
シ〇〇	オ四次帰還者 五三二名	同 右
シ〇〇	蘭軍舟新着として一七一名	「ベラワン」に派遣（現地に残置しあり）
シ〇〇	オ七次帰還部隊として一〇五六名（連隊主カ）	ベラワン出帆
シ〇五	オ七次帰還オ一回 六一一名	若鷹乗艦
至自	オ二回 四四五名	扶養丸乗船
至自	同	「パレンバン」上陸
至自	同	「パレンバン」出帆
至自	同	「シンガポール」上陸
シ二五	オ一回部隊ニ六九名	「シンガポール」出帆
シ二五	大竹港上陸	
シ二八	オ二回部隊七八五名	「シンガポール」出帆
シ三四	大竹港上陸	
シ三五	復員完結	

近衛捜索連隊部隊略歴 昭三六三

年月日	概要
昭和五年三月五日	軍令陸甲オ五十七号に依り近衛捜索連隊臨時編成下令 編成完結(南支那中山県)
昭和五年三月七日	南支中山県警備
昭和五年三月八日	南印仏印進駐作戦参加の爲中山県唐家巷出發 南印仏印西貢上陸
昭和五年三月八日	南印仏印進駐作戦に参加
昭和五年三月八日	南印仏印「タケヲ」に在りて仏印警備 仏印泰國境通過
昭和五年三月九日	泰國進入作戦に参加
昭和五年三月九日	泰國警備
昭和五年三月九日	泰馬東國境通過

年月日	概	要
明治三十九年一月三十一日	馬末攻略作戦に参加	
明治三十九年二月一日	新嘉坡攻略作戦に参加	
明治三十九年二月四日	テコンベツナル島掃蕩	
明治三十九年三月九日	昭南港出発	
明治三十九年三月十三日	スマトラ島上陸	
明治三十九年三月十五日	スマトラ島作戦に参加	
明治三十九年三月二十一日	スマトラ警備	
明治三十九年三月二十四日	スマトラ島防犯	
明治三十九年三月二十五日	スマトラ警備(連合軍命令に基き)	
明治三十九年三月二十五日	内地帰還の爲スマトラ島ベラワン港出発 (師団命令に基き、オ三四中隊を残留)	
明治三十九年三月二十六日	名石屋港上陸	

	年 月 日
	概 復員完結（第三・四中队を除く） 要

-23-

0065

近衛才二師団

近衛野砲才二連隊部隊略歴

年月日	概	要
西二二	軍令陸甲才三十八号に拠り近衛砲才二連隊編制改正下令	
西二二	編制改正完結	
西三二	毛呂出發	
西三二	宇留港出帆	
西三二	南支那玄東省黃捕上陸	
西三二	翁奕作真參加	
西三二	賓陽作戰參加の并玄東省黃捕出帆	
西三二	玄東省收虫山上陸	
西三二	賓陽、江南、才二次西陽作戦參加	
西三二	軍令陸甲才十号に拠り近衛野砲才二連隊臨時動員並に編制改正下令	

年月日	概要
昭和五年六月五日	勸員完結 屯營出帆
昭和五年六月六日	東京港出帆
昭和五年六月七日	中支那漢口上陸
昭和五年六月八日	中二十九軍既属の爲漢口出帆
昭和五年六月九日	広東省の救虫山上陸
昭和五年六月十日	近江野砲兵連隊編制改正完結
昭和五年六月十一日	北都仏印作戦並に南寧附近の警備
昭和五年六月十二日	欽寧撤去作戦の爲龍川江出帆
昭和五年六月十三日	広東省中山県唐家上陸
昭和五年六月十四日	軍令陸甲字五十七号に拠り近衛野砲兵連隊編制改正下令
昭和五年六月十五日	編成改正完結
昭和五年六月十六日	中山県警備並に東江作戦参加
昭和五年六月十七日	南都仏印進駐作戦参加の爲中山県唐家出帆

昭	自	自	自	自	自	自	昭	年月日	概	要
天	天	天	天	天	天	天	天	天八二	南都印西貢上陸	
天	天	天	天	天	天	天	天	天三八	南都印アナンパンル周辺の警備	
天	天	天	天	天	天	天	天	天三	印素国境匪圖	
天	天	天	天	天	天	天	天	天八	泰、馬來国境匪圖	
天	天	天	天	天	天	天	天	天五	泰因進入作戦並に北都中都南都馬來攻略作戦参加	
天	天	天	天	天	天	天	天	天五	新嘉坡攻畧作戦並に昭南島警備	
天	天	天	天	天	天	天	天	天五	スマトラ島作戦の為昭南島出帆	
天	天	天	天	天	天	天	天	天五	スマトラ島上陸	
天	天	天	天	天	天	天	天	天五	軍令陸甲オ四十号に拠り直江野砲オ二連隊と改称	
天	天	天	天	天	天	天	天	天五	スマトラ島警備並に防犯	
天	天	天	天	天	天	天	天	天五	スマトラ島治安維持	
天	天	天	天	天	天	天	天	天五	スマトラ島バランラニ出帆	

	年月日
<p>昭 三 六 二</p> <p>復員完結</p> <p>名古屋上陸</p>	<p>続</p> <p>要</p>

近衛工兵第二連隊部隊略歴

近衛工兵連隊
近衛工兵第二師團

年月日	概
昭和十四年十一月二日	昭和十四年十一月二日軍令陸甲才二一八号より近衛工兵中隊を編入
昭和十四年十一月三日	編成完結
昭和十四年十一月九日	屯営出發
昭和十四年十一月十一日	守備出發
昭和十四年十一月十八日	南支那東省番禺県黄埔港上陸
昭和十四年十一月十九日	番禺県麥地到着
昭和十四年十一月二十二日	番禺縣麥地警備
昭和十四年十一月二十五日	翁英作戦参加
昭和十四年十一月二十五日	襄陽作戦参加

概

要

年月日	概
五月二十三日	広西省邕寧県東道村定秋に駐留し警備並築城工事
五月二十二日	広西省邕寧県平夜村黄茅村に駐留し警備並築城工事
五月十八日	江南地区警備
五月十七日	南寧周辺警備
五月十六日	直江工兵連隊
五月十五日	軍令陸甲才十号直江師團臨時動員並編成改正下令
五月十四日	動員完結
五月十三日	屯營出發老補老出航
五月十三日	受核種通過
五月七日	中支湖北省楊子陸軍揮頭上陸
五月七日	同老出航
五月六日	受核種通過

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	昭	年 月 日	概 要
天五 二二 五八	天五 七三 七六	天五 二二 三三	天五 二二 二八	天五 二二 二八	天五 九三 九七	天五 九七 二二	天五 七 五		
雪州方面渡断作戦	昭和十五年十一月十日軍令陸甲才五七号下依り近江師団編成改正完結	中山県警備	中山県警察上陸	龍竹出発	飲泉出発	南翠出発	飲泉撤去作戦	仁印進駐作戦	南翠岡田警備
							緋成改正完		南支広東省飲泉上陸
							広東省南翠到着		

年月日	概	要
天保三 四 五	仙尾附近渡断作戦	
天保三 五 三	東江作戦	
天保三 八 五	南都仏印進駐作戦	
天保三 八 七	南都仏印進駐の爲中山保彦家老出航	
天保三 八 八	南都仏印西貢上陸 文趾支那「ミイト」に進駐	
天保三 八 二	西貢附近の警備	
天保三 八 三	泰國進入作戦	
天保三 八 四	泰國進入作戦	
天保三 八 五	泰國進入作戦の爲文趾支那「ミイト」出航	
天保三 八 六	仏印泰國境通過	
天保三 八 七	泰國盤谷到着	
天保三 八 八	泰國盤谷出発	
天保三 八 九	泰、馬來國境通過	

年月日	概要
至昭 五 天 一 三 一 天	北部及中部馬來攻略作戦
至自 五 三 一 三	南部馬來攻略作戦
至自 五 二 一 二	新嘉坡攻略作戦
至自 五 二 一 二	昭南島警備
至自 五 三 一 三	スマトラ島作戦
至自 五 三 一 三	昭南島出帆
至自 五 三 一 三	スマトラ島上陸
至自 五 三 一 三	スマトラ島警備
至自 五 三 一 三	專進の舟艇屯地「タパタリ」州「パリヤ」出発
至自 五 三 一 三	「ベラワン」港上陸
至自 五 三 一 三	專進の舟艇送業務
至自 五 三 一 三	馬來泰國境「パタンベツ」サール通過

年月日	昭 二 二 四
概要	は近江歩兵第五連隊に編入せらるる 第一中隊一小隊防犯作業の爲にバンカビリトンに考へ派遣 第一中隊は第一次第外移駐部隊として宿営地「ズスノウール」出發 同中隊「ベラワン」若出帆す